

有限会社ツノダ塗装 殿

東和酵素株式会社

報告者 重田和麻

ミタゲンクリアー報告書

貴社ますますご盛栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

10月9日に採水した貴社ブース循環水の状況をご報告致します。

敬具

1. ブース循環水の状況

	pH	粘度 (秒)	有効菌数 (ミタゲン菌)
塗装ブース	7.0	11.2	1ml当り 0.4×10 ⁵
【弊社推奨値】	6.0~8.5	7秒台	1ml当り 1.0×10 ⁵ 以上

※水粘度はNK-2型の粘度カップを使用しています。

2. 所見

サンプル水測定の結果、循環水のpHは至適範囲内の数値を示しておりますが、粘度が高い数値を示しました。粘度低減を目的として採水と同時にフロック剤（薬剤名：フロックL）を添加し、クリーニングを実施しました。ミタゲン菌数が少ないのは粘度上昇によるものであり、粘度が低下しミタゲン菌が生息しやすい環境になれば有効菌数も増えるものと推測します。

顕微鏡観察の結果、全体的にフロックが確認できず、遊離バクテリアのみ確認できることからミタゲン菌の活性が非常に低い状態です。しかしながら原生動物（ユウグレナ）も確認することができました。原生動物は汚水の中では生息することができません。原生動物の出現はミタゲン菌によりブース循環水が浄化されていることを示します。

ミタゲン菌は好気性菌のため、十分に活性化するためには適切な溶存酸素が必要となります。バイオブースにおいてはスラッジが蓄積すると、循環水量が減少するとともに溶存酸素の総量も減少してしまい、浄化効率が著しく低下します。バイオ処理を効率よく行うためには、水槽内に溜まったスラッジは出来るだけこまめに除去して頂き、適正な量を維持する必要がありますので、日々の管理を引き続きよろしくお願い致します。

塗装ブースは菌の生息にとって厳しい環境にあり、ミタゲン菌も徐々にダメージを受けて活性力が衰えてしまいます。定期的にミタゲンクリアーを投入することで活性力のあるミタゲン菌が確保され、安定したバイオ処理を行う事が出来ますので、菌の補給投入も併せてお願いいたします。

塗装ブース循環水の顕微鏡観察状況

撮影日：10月17日

サンプリングしましたブース循環水の状況についてご報告致します。

倍率 400倍
生物相
ユーグレナ
遊離バクテリア
スラッジ

